

リスクと機会	詳細	対応策
低炭素製品開発の技術リスクと機会	<p>【想定される環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本の住宅メーカーや建設会社が事業を通じて環境負荷低減の取組みを進めている ➢ 建設業界は原料調達（カテゴリ1）及びカテゴリ11の割合が大きい特徴があり、管工機材は住宅メーカーや建設会社のカテゴリ1に該当 ➢ 脱炭素の機運が高まる中、カテゴリ1削減のために低炭素の管工機材の需要が高まることが想定される 	<p>管工機材の低炭素化の開発を検討・着手する</p> <p>【リスクの低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 低炭素の素材への切り替え ➢ エネルギー由来の低炭素化（再エネの使用、エネルギー使用量の削減）
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 低炭素化（代替素材の使用等）の技術開発が課題 ➢ 一方で、製品の低炭素化が実現した場合、事業機会の拡大が見込める 	<p>【機会の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 上記の取組みをCFP（製品ごとのライフサイクルCO2排出量）として数値化し、顧客に訴求 ➢ 鉄製と比較し、長期間使用できるため新規生産によるCO2排出抑制できることを訴求

リスクと機会	詳細	対応策
<p>原油価格変動の市場リスク</p>	<p>【想定される環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1.5°Cシナリオでは、脱炭素機運の高まりにより原油価格の下落が見込まれるが、4°Cシナリオでは原油需要の高まりにより、原油価格の高騰が予測されている ➢ 原油価格の変動により、石油由来の資材価格も変動することが想定される 	<p>原油由来の購入資材の割合を低減する</p> <p>【リスクの低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 低炭素の素材への切り替え、配合比率の変更 ➢ 原油由来の原材料の使用量削減 ➢ エネルギー由来の低炭素化 (再エネの使用、エネルギー使用量の削減)
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 原油価格の変動による、コスト変動リスクが課題 	

今後の対応策

1.5℃

4℃

リスクと機会	詳細	対応策
異常気象による サプライチェーンの 寸断や事業の中断 の物理的リスク	【想定される環境】 今後気温上昇が続くことが想定され、1.5℃、4℃シナリオのいずれの場合でも極端な大雨のリスクが高まる。その結果、本社拠点やサプライチェーン上で洪水リスクが高まる	熊谷第二工場の浸水対策・本社機能のバックアップをする ➤ 原材料調達先の分散化 <工場> ➤ 浸水壁、堤防、土嚢や止水板などの浸水対策 ➤ 在庫・重要設備の高所配置 ➤ 電源のバックアップ ➤ 生産拠点のバックアップ ➤ 製品在庫保管場所の分散 <本社> ➤ 本社機能のバックアップ (本社でしかできない業務がある場合) <原料調達先> ➤ 原材料調達先の分散化 (企業、国、エリア等)
	【課題】 ➤ 熊谷第二工場 (0.3~3m)、本社 (2F, 0.5~3m)、が浸水した場合に備え、事業への影響を最小限に抑えることが課題 ➤ サプライヤーが被災した場合であっても、安定した原材料調達が課題	